

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年 1月

協議会名: 本庄市交通政策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持補助事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
朝日自動車株式会社	本庄北地域デマンド	○新規利用者の獲得のため、広報紙上にPRを兼ねた懸賞クイズを掲載した。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	C 目標利用者数:15,000人 R1年度利用者数:11,983人 目標利用者満足度: 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R1年度利用者満足度: 満足 41.2% 普通 15.8% 不満 26.3% 目標に対する実利用者数の割合は79.9%で、利用者数は前年度比5.7%減となった。運行区域で見ると、利用者の多い本庄北地域、本庄南地域における減少率が高かった。アンケート調査では満足度は前年度と比べ5.2%減、不満足については21.2%増となっている。不満足は増加しているが、移動手段を持たない高齢者等の交通弱者の移動手段として一定の役割は果たしている。	利用者数の多い本庄北地域、本庄南地域の利用率が減少したことは、運行開始から6年が経過し、特定の利用者による運行の硬直化や、車両数に対し飽和してきている利用者数といった状況が、結果として「利用したい時間に予約が取れない」といったアンケートの声につながっており、利用者離れを引き起こしていると推測される。 このようなことから、デマンド交通未利用の自治会長へ試乗券配布、ケーブルテレビを通じての利用案内など将来的な利用意向につながるような取り組みを今後も進めるとともに、さらに予約システムや車両数について見直しを検討していく。
	本庄南地域デマンド	○評価検証の一環としてアンケートを実施した。			
	児玉市街地デマンド	○区域間共通の停留所設置し、利用者の利便性向上を図った。			
	児玉山間地域デマンド	○利用方法についてより分かりやすく周知するため、地元ケーブルテレビに働きかけ、デマンド交通の乗り方についての番組を放送してもらった。			
本庄観光株式会社	本庄シャトル便	○評価検証の一環としてアンケートを実施した。 ○広報紙に利用案内を掲載し、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 目標利用者数:11,500人 R1年度利用者数:13,408人 目標利用者満足度 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R1利用者満足度 満足50.9% 普通18.2% 不満29.1% 目標に対する実利用者数の割合は116.6%で、前年度比16.6%増となり、目標値を超える利用者数となった。交通結節点(本庄駅、本庄早稲田駅)を結ぶ交通手段として定着が進むと共に、人口増加が進む区域において、市内移動を快適に行えるネットワークの形成に寄与しているが、不満の割合は前回の3%から大きく増加した。	目標を上回る利用があり、アンケートでは満足と回答した利用者が半数以上占めている一方で、不満と回答した利用者の割合が前回に比べて増加した。利用者の増加に伴い、よりよい使い勝手を求める利用者が増えていることが考えられる。 運行本数、運行時間などについて、ほかの交通手段の役割も踏まえて検討していく。